

《担当者名》 伊藤 加奈子 kitonana@hoku-iryu-u.ac.jp 高橋 啓太 唐津 ふさ 熊谷 歌織 神田 直樹
高木 由希 前川 真湖

【概要】

既習の理論や方法をもとに、成人期の健康問題をもつ人へ必要な看護援助を実践的に学習することを目標とし、ロールプレイや技術演習を通して看護のあり方を検討する。

【学修目標】

1. 既習の理論や方法をもとに、成人期の健康問題をもつ対象者へ看護を提供するために必要となる看護援助を考え実施できる。
2. 事例をもとに対象者の状況をアセスメントし、対象者にあった看護援助を考え実施できる。
3. 実施した看護援助を振り返り、対象者の反応や行動から評価できる。
4. 演習を通して、アセスメントや実践における自己の課題を明確にできる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	成人看護学演習概要 術後回復期に必要な援助	演習目標、全体構成、進め方について理解する。 講義：手術を受ける患者の術後回復を促進するために必要な知識、観察、看護援助について学ぶ。	伊藤・高橋
3) 4	術後回復期に必要な援助	演習：術後患者の身体モニタリングに必要な技術の体験を通して、術後のアセスメントに必要な視点を学ぶ。	伊藤・高橋 唐津・熊谷 神田・高木 前川
5	術後回復期に必要な援助	演習：シミュレーションを通して、術後患者の身体モニタリングの技術とアセスメントする過程を体験する。	伊藤・高橋 唐津・熊谷 神田・高木 前川
6	術後回復期に必要な援助	講義：術後合併症を回避する重要性と必要な支援を導く思考過程を学ぶ	高橋
7	術後回復期に必要な援助	講義：演習に関連する内容および、早期離床の意義、離床を促すために必要な観察、苦痛のアセスメント、安全対策など術後回復を促進するための看護援助について学ぶ。	高橋
8) 9	術後回復期に必要な援助	演習：術後回復のロールプレイを通して、術後回復を促進するための具体的な援助方法を学ぶ。患者・看護師両者の立場から援助のあり方を検討する。	高橋・伊藤 唐津・熊谷 神田・高木 前川
10) 11	セルフマネジメント支援	講義：糖尿病の療養法、セルフマネジメント支援について学ぶ。事例の提示・解説を受け、事例患者の状況を理解する。	伊藤
12) 13	セルフマネジメント支援	演習：糖尿病患者が行う療養法を体験し、患者の体験を理解する。セルフマネジメント支援における看護師の役割、患者教育に必要な視点・内容・方法について、事例患者をもとに検討する。	伊藤・高橋 唐津・熊谷 神田・高木 前川
14) 15	セルフマネジメント支援	演習：ロールプレイを通し具体的な患者教育の方法について学ぶ。実施した患者教育を振り返り、患者・看護師両者の立場から援助のあり方を検討する。	伊藤・高橋 唐津・熊谷 神田・高木 前川

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

演習課題50% 定期試験50%

【教科書】

1. 糖尿病治療の手引き 改訂第57版 日本糖尿病協会・南江堂
2. 吉田みつ子・本庄恵子監修 新訂版 写真でわかる 基礎看護技術1アドバンス インターメディカ
3. 本庄恵子・吉田みつ子監修 新訂版 写真でわかる 臨床看護技術1アドバンス インターメディカ
4. 本庄恵子・吉田みつ子監修 新訂版 写真でわかる 臨床看護技術2アドバンス インターメディカ

【参考書】

講義の中で提示する

【学修の準備】

- ・演習内容に関連する、成人看護各論 「糖尿病患者の看護」、成人看護各論 「術後の看護」、看護技術各論、看護技術演習の内容を復習する（30分）。
- ・演習前に提示される事前課題、演習後課題を作成する（各30分）。
- ・指定された視聴覚教材を視聴し、演習の準備を行う（30分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

D P 2 , 3 , 4

【実務経験】

伊藤 加奈子（看護師），高橋 啓太（看護師），唐津 ふさ（看護師），熊谷 歌織（看護師），神田 直樹（看護師），高木 由希（看護師），前川 真湖（看護師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での看護師としての実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な看護援助について教育を行う。